

No.13 人はいつ能力を向上させるか

義高 互

S中学で特支学級を担当した時の生徒が、良い活動をした記録等を見てもらいたいと思います。その時の一人がS君です。

彼はその前に担当して、たくさん絵を描いたR君とは違い、なんでもたくさん絵を描けるタイプではありませんでした。それでもアニメなどを制作するのが好きでした。

S君の適性や作業能力を分析し、得意なストップモーションの製法や絵を保護者や地域民の方々に手伝ってもらうなどの空をして制作活動を継続しました。これについては別の項目で解説できればと思います。

その制作過程も学習として行い、授業研究会でも公開しましたし、指導案も残ってる授業では山形大学の中井教授にも参観・指導していただきました。

さて、そのS君ですが、小学校2年生から知的支援の特支学級に在籍しています。

ですが、中学校時に学力も大きく伸びで、標準値を超すようになりました。高機能トレーニングのスコアを残していましたので、その時期などがわかります。そのグラフです。学年でも低位であった能力が、向上しているのが見て取れます。その後スコアを残した生徒との比較を見るとわかります。

特に2か所、大きく向上が見られる時期があります。素晴らしい能力向上が見られます。この時期は何があったのでしょうか？

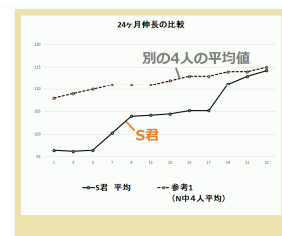
この時期に能力を向上させる動機が生まれたのです。

それは自分たちが制作した作品が次々に賞を受賞した時期なのです。これがその新聞記事



子供が大きく成長する要素は何か

本物の評価による
自信 自己肯定感



です。授賞式にも出席し、大人のしかも一流の研究者や製作者とも並んで表彰される。

また国際映画祭にも作品がノミネートされて参加してきました。

生徒たちはもうお世辞がわかります。とりあえずの誉め言葉を敏感に察知します。

本物の評価を受け、本物の賛辞を受けた表彰が続いた時期、彼は大きく意欲を高め、能力を向上させていました。

部活動などでも似たような事例があると思います。今まで勝てなかった選手が、大会などで入賞すると、その後見違えるようなプレイヤーに成長することはスポーツでは珍しい話ではありません。スポーツでも大会の優勝などでの称賛や自信は、選手が急速に能力を高める事につながります。

S君も制作活動での受賞が続いた時期に、自信をつけ急速に能力を高めていたのです。

自信と意欲、それが生徒の能力向上の大きな原動力になった事は明らかでした。

なかなか自信をつけられる場面と、結果がを出すことは難しいです。ですが、意欲と自信が成長を生む大きな要素になると考えています。

そのS君が主体となって3年生の文化祭の時期に発表をしました。今の提示の参考になれば幸いです。

END

